



～子どもたちの笑顔を育む仁淀川～

仁淀川清流保全推進協議会では、流域全体で仁淀川の清流保全に取り組んでいます。  
仁淀川流域ニュースレターでは、その活動の一部を、皆さんにお届けします！

## RAC※川の安全教室 活動レポート



## ▽ 川という自然の理解講座

令和7年11月5日に、「川という自然の理解講座」を開催しました。参加者全員で採集した水生生物の特徴を確認しながら分類作業を行い、ヒラタカゲロウやヘビトンボなど、11種類の水生生物が確認できました。

また、水生生物が川の環境に与える影響や、河川ごとの環境の違いについても学びました。

## ▽ 川と人、社会、文化の関わり講座

令和8年1月29日に、「川と人、社会、文化の関わり講座」を開催しました。実習の大野集落歩きでは、共力橋、河嶋山神社、金刀比羅宮、栄保橋などを見学しました。

今回の講座を通じて、仁淀川の美しい自然や歴史、文化、地域の暮らしについて身近に感じる貴重な機会となりました。



(※) RAC：特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会

## 2025年度下半期のダイジェスト



第19回仁淀川の森と水を考えるシンポジウム

令和7年10月12日(日)、仁淀川漁業協同組合主催でシンポジウムが開催され、約80名が参加しました。基調講演とパネルディスカッションを通じ、仁淀川の自然環境や生態系を支える重要な要素についての知見が共有され、さらに地域の課題解決に向けた取り組みが議論されました。



第22回仁淀川国際水切り大会

令和7年10月12日(日)、波川公園前の川原でNPO仁淀川お宝探偵団主催の国際水切り大会が開催され、149名の参加者が集まりました。予選から熱気あふれる競い合いが繰り広げられ、中には川の向こう岸まで届きそうな投球もあり、会場からは大きな歓声が上がっていました。



第18回仁淀川流域山林保全育成の会植樹事業

令和7年11月9日(日)、いの町中追で、仁淀川流域山林保全育成の会主催の植樹活動が行われ、総勢51名の参加者が、用意されたケヤキ200本、ヤマザクラ200本、イロハモミジ200本、イヌシデ100本、クマシデ100本の計800本の苗木を植樹しました。



「仁淀川の“緑と清流”を再生する会」24周年記念シンポジウム

令和7年11月29日(土)、「林業再生で川の再生へ」をテーマに開催されたシンポジウムに、林業関係者や漁協役員、役場職員、県議、地元住民など54名が参加し、充実した会となりました。

## 掲示板

■第6回川下り「カヌーでGO! SUPでGO!」  
日時：令和8年4月29日(水) 9:00～13:00  
場所：水辺の駅あいの里から波川公園まで  
主催：仁淀川お宝探偵団

キレイな仁淀川をいつまでも残せるように、連休初日の4月29日、カヌーなど15艇ほどで川下りをしながら仁淀川に遊びに来ている方に、ゴミの持ち帰りの呼びかけなどを行います。

## コラム

### 仁淀川の濁水に思う～林業再生で仁淀川の再生へ～



今年は秋以降の降水量が少なく、仁淀川の水量は例年に比べ大きく減少しています。これは降水量が少ないのが大きな原因ではありませんが、流域の山のスギ、ヒノキの人工林も影響しているのではないかと考えています。(戦後、国策として行われた拡大造林計画で、補助制度などもあり、山の上まで植林が進められ、)今や50～60年生の木となり、地面から吸い上げる水の量は冬でもかなりの量となっています。多くの谷川が枯れてしまっています。過疎化が進む中で、間伐されていかなかったり、山の所有者が分からなくなっている状況もあり、放置林も多く見られます。こうした状況に、地元でも啓発活動を行い、間伐や皆伐、針葉樹と広葉樹の混交林化などが進められていますが、容易ではありません。山を離れて市街地に住む方にも、関心を持って山のことを考えていただきたいと思います。濁水や節水のニュースをきっかけに、私たちの暮らしを支える水がどこから生まれ、どのように届けられているのかを改めて見つめ直してみたいかがでしょうか。

仁淀川清流保全推進協議会 部会員 園山 幹雄

仁淀川ニュースレターに関するお問い合わせ

仁淀川清流保全推進協議会 (高知県 林業振興・環境部 自然共生課)  
高知市丸ノ内1丁目7番52号

tel : 088-821-4863 fax : 088-821-4530 e-mail : seiryu@ken.pref.kochi.lg.jp

